

Relationship between casual serum triglyceride levels and the development of hypertension in Japanese

富田, 祐亮

<https://hdl.handle.net/2324/4475007>

出版情報 : Kyushu University, 2020, 博士 (医学), 課程博士
バージョン :

権利関係 : Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (2)



KYUSHU UNIVERSITY

氏 名 : 富田 祐亮

論 文 名 : Relationship between casual serum triglyceride levels and the development of hypertension in Japanese

(日本人における随時血清中性脂肪レベルと高血圧発症との関連)

区 分 : 甲

論 文 内 容 の 要 旨

【目的】 WHO の報告によると世界で推定 11 億 3000 万人、男性の 4 人に 1 人、女性の 5 人に 1 人が高血圧を罹患しており、世界人口の高齢化に伴い、高血圧および高血圧関連の合併症の発症率と有病率は今後数十年で増加すると予想される。高血圧は心血管病 (CVD) の最大の危険因子であり、CVD 発症予防の上で正常な血圧レベルを維持することは重要である。近年、低比重リポ蛋白 (LDL) コレステロールが高血圧の発症に影響を与える可能性が示唆されている一方で、中性脂肪と高血圧発症との関連についても注目されている。しかしながら、これらの関連についてアジア人の集団での検討は少なく、LDL コレステロールの影響を考慮して検討したものはほとんどない。本研究では日本人の職域集団における随時血清中性脂肪レベルと新規高血圧発症との関連を検討した。

【研究デザインと方法】 2006 年から 2018 年の間に健康診断を受診したもののうち、1 年以上経過観察できた高血圧の既往のない日本人の職域集団 5,933 人を後ろ向きに追跡した。対象者を血清中性脂肪レベルの四分位により 4 群に分類し、期間中の初回受診から最終受診まで追跡した。新規高血圧発症との関係を他の交絡因子の影響を調整しながら検討した。

【結果】 平均 6.7 年の追跡期間中に 946 人が高血圧を新規に発症した。高血圧の粗発症率 (対 1000 人年) は、血清中性脂肪 Q1 (<0.76 mmol/l) 群の 10.1 に比べ、Q2 (0.76-1.17 mmol/l) 群は 19.6、Q3 (1.18-1.84 mmol/l) 群は 26.0、Q4 (>1.84 mmol/l) 群は 36.5 と血清中性脂肪レベルの上昇に伴い上昇した (傾向性 P 値 <0.0001)。この関連は年齢、性別、肥満、喫煙習慣、飲酒習慣、運動習慣、糖尿病の有無、血清尿酸値、推定糸球体濾過量で多変量調整後も変わらなかった (多変量調整ハザード比 [95% 信頼区間] : Q2 群 1.40 [1.09-1.79]; Q3 群 1.43 [1.12-1.83]; Q4 群 1.62 [1.28-2.07] 対 Q1 群 (傾向性 P 値 = 0.0002))。さらに収縮期血圧を調整しても有意であった。この血清中性脂肪レベルの高血圧発症に及ぼす影響は、血清 LDL コレステロールレベルに関わらず認めた。同様に、性別、肥満の有無別に検討しても血清中性脂肪レベルの高血圧発症に与える影響に明らかな違いはなかったが、40 歳以上の群に比し 40 歳未満の群でその影響はより強かった (交互作用 P 値 = 0.002)。

【結論】 日本人職域集団において随時血清中性脂肪レベルの上昇は高血圧発症と有意に関連していることが示唆された。